

栽培指導付き市民農園での 畑センサーとコミュニティアプリの活用

大倉ふるさと農園

<2018年12月17日作成>

システム概要

- ①仙台高専千葉研究室で研究開発中の気象センサーと農園コミュニティアプリを試験導入し、利用者同士のコミュニケーション促進に活用
- ②カメラ付き畑センサー「KAKAXI」を設置し、遠隔での農園状況の把握、ホームページでの情報発信等に活用



導入経過・背景

- 市民農園向けの新しいITサービスを企画していた富士通（株）からの提案を受け、利用者ニーズ・導入効果を検証するため2017年4月からKAKAXIを設置・活用。
- 2017年9月から地域住民が中心となって農園拡張と新サービス導入の検討を開始。市民農園向けセンサーとコミュニティアプリを研究開発していた仙台高等専門学校千葉研究室にも参加頂き、2018年4月から試験導入。
- 2019年の新農園オープンに向けて、ITを活用した新サービスの検討を継続中。

導入者コメント（効果・課題等）

- 農園が市街地からは離れたところにあるため、遠隔で気温・降水量等を日々確認できるセンサーにはニーズがあることが確認できた。今後は利用料含めた費用対効果の検証が必要。
- 画像による農園状況確認、画像情報発信によるプロモーション効果、農園コミュニティアプリについては、十分な活用・検証ができていないため、有効活用に向けた改善や効果検証が今後の課題。